

一般演題（口演） 149 / 下部 蛍光ガイド法

[司会]

西口 幸雄（大阪市立総合医療センター消化器外科）

2025/12/13 16:10～16:50 第10会場 パシフィコ横浜 会議センター 4F 416

[O149-1] 16:10～16:50

蛍光ガイド手術の診療科横断的活用と今後の展望



[筆頭]柳 舜仁（川口市立医療センター消化器外科／東京慈恵会医科大学外科学講座）

[共同]

今泉 佑太（川口市立医療センター消化器外科）

川窪 陽向（川口市立医療センター消化器外科）

中嶋 俊介（川口市立医療センター消化器外科）

鈴木 大貴（川口市立医療センター消化器外科）

河合 裕成（川口市立医療センター消化器外科）

小林 毅大（川口市立医療センター消化器外科）

伊藤 隆介（川口市立医療センター消化器外科）

衛藤 謙（東京慈恵会医科大学外科学講座）

田代 良彦（昭和医科大学消化器・一般外科）

青木 武士（昭和医科大学消化器・一般外科）

安永 秀計（京都工芸繊維大学繊維学系）

安藤 慎治（東京科学大学物質理工学院応用化学系）

近年、低侵襲手術の普及と近赤外蛍光カメラの進歩により、蛍光ガイド手術が広まりつつある。中でもICGによる消化管血流評価は、K939-2の診療報酬化も後押しし、縫合不全予防の手段として一般化しつつある。近赤外蛍光樹脂製の蛍光尿管カテーテル・蛍光尿道力カテーテルは、骨盤内手術における尿路の可視化が可能で、大腸癌手術における尿路損傷予防に加え、低侵襲手術率の向上、出血量の低減、サージカルマージンの確保への効果が期待される。産婦人科・泌尿器科における複雑な手術での応用例も報告されている。同素材の蛍光クリップは、術前内視鏡で消化管内腔に留置することで、胃癌や大腸癌における病変同定に利用できる。Secufix子宮イルミネーターは光ファイバー照明により子宮円蓋を可視化し、婦人科手術のみならず直腸癌の拡大手術への応用も期待される。開発中のICG蛍光ガーゼは、ガーゼロスト対策だけでなく、消化管授動操作における剥離空間のガイドとしての応用が可能と考えられている。また、腹部救急領域ではICGによる腸管viability評価が国際的コンセンサスとして発信されており、蛍光ガイド手術は診療科横断的な普及が今後強く望まれる技術である。これら蛍光ガイド手術の成績や使用法と臨床応用例を供覧する。